

# 愛知教育大学 地理学専修 卒業論文執筆要領

1992.12.10 作成

1995.12.07 改訂

2001.11.08 再訂

2012.11.22 三訂

2014.12.03 四訂

## 1 論文の構成と体裁

論文は、1 枚目に論文題目・学籍番号・氏名、2 枚目に摘要、3 枚目以降に、本文の目次、図表・写真・資料の一覧、本文、注、参考文献の順で並べる。

- (1) 論文タイトル：「何を」研究したのかを具体的に示す（卒業論文の内容をもっとも適切に表現したものでなければならぬ）。副題は原則としてつけない。
- (2) 摘要：論文の最初に、**800 字以内の摘要（アブストラクト）**をつける。
- (3) 本文：章・節・項と細分し、章が変わるたびにページを改め、章の後や節と節、項と項の間は 1 行空ける。用紙の最下段に節などのタイトルだけがくるような中途半端な場合には次ページに送る。章は I, II, ……、節は 1., 2., ……、項は 1), 2), ……とする。本文中で前の章や節に言及する場合、「III では」「II の 1 における」のように表記する。  
＜具体例＞ I はじめに…、II 対象地域の概観…、1. 名古屋市の特徴…、1) 人口構成、など
- (4) 注：本文中の当該箇所の右肩に、**上付き文字**で 1)、2)、…など通し番号を付し、本文（謝辞）の後、参考文献の前に、まとめて番号を付して注の内容を列記する。
- (5) 参考文献：論文執筆に使用した文献をすべて列記する。本文中に直接引用はしなかったが、論述の参考とした文献（参考文献）についても入れる。その場合、邦文のものを先にして著者名の五十音順に並べる。欧文のものは邦文の後に著者名のアルファベット順で並べる。
- (6) 論文の体裁：A 4 版白紙を縦に用いて横書きする。1 ページ 35 字×30 行を目安とし、余白は上 25mm、下 35 mm、左 35mm、右 20mm ほどとする。文字サイズは、**論文タイトルは MS ゴシック体で太字 12 ポイント、章は MS ゴシック体で太字 11 ポイント、節以下ならびに本文は MS 明朝体 10.5 ポイント**とし、**英字は Century** とする。
- (7) 分量：400 字詰め原稿用紙で 100 枚程度（40,000 字）を目安とする。

## 2 文体と表記

- (1) 文体：文章は口語体とし、現代かなづかい・常用漢字を用いる。文章の書き出しおよび改行は必ず 1 字分空けて書き始める。句読点は全角のピリオド（.）・コンマ（,）を用いる。また、（ ）、「 」、『 』などの記号は全角、数字および欧文文字などは半角とする。
- (2) 表記
  - 1) 年号：原則として西暦を用いる。ただし、近代以前の元号を使用する時には、1834（天保 5）年のように西暦を併記する。また昭和 40 年代後半という言い方をする時には、昭和 40（1965）年代後半のように書く。
  - 2) 名詞の列記はコンマ（,）で区切り、同格名詞の列記のみ 1 字分とって中点（・）を間に入れる。

3) 算用数字と漢数字との使い分け：原則として、次の具体例に準拠する。

<具体例> 1人当たり、一人っ子政策、一、二を争う、世界一、第一次産業、一次産品、二次加工、2次元、二分する、第二次世界大戦、第二種兼業、二重構造、第2に、第2次5カ年計画、二国間援助、第三世界、六大都市、三大都市圏、百万都市、千数百人、2万数千人、2万5000分の1地形図/2.5万分の1地形図、日系二世、ルイ14世、八代将軍吉宗など

4) 数量の表記では、「1万 2000」または「12,000」のいずれかの方式を採用し、「1万2,000」のような両方式を混用しない。

5) 分数は、「3分の2」または「2/3」のように表記する。

6) 緯度・経度は、「北緯42度15分」または「42°15'N」のように表記する。

7) **直接引用には「」**を用いる。引用文内の「」は『』とする。また、本文などで直接言及する**書名には『』**(欧文はイタリック)、**論文名には「」**(欧文は“ ”)を用いる。

8) 文章表現は、「分析を行う」→「分析する」のように、なるべく簡潔・明快にする。

9) 「筆者」とは自分自身(一人称)を指す場合のみに用いる。

### 3 図・表

(1) **図タイトルは図の下段に、表タイトルは表の上段に**それぞれ記す。出典やキャプションを入れる場合は、図・表ともに下段に表記する。

(2) 図・表ごとに、図1、図2、表1、表2、のようにそれぞれ通し番号を付ける。一つの図表が複数の部分に分かれる場合には 図1-1、図1-2、表1-1、表1-2とし、本文では図1-1では・・・などと言及する。

(3) 写真には適切な題と説明文を付し、図・表と同様に写真1、写真2、のような通し番号を付す。なお、説明文のほか撮影者・撮影場所・撮影日時なども明記する。

(4) 図・表の備えるべき条件である、番号・題目・凡例・出典・スケール・方位を入れ忘れない。また、図・表が示す年次も明記する。

(5) 図・表はできるだけ簡潔に表現したものとし、生のデータをのせない。

(6) 資料・史料：聞き取りの内容や原文をそのまま引用する古文書などの資・史料についても、図表と同様に通し番号を付すこと(例えば、資料1、資料1-1、史料1、史料1-1)。

(7) カラー印刷の図表をコピーした際に、明瞭さを欠くことがあるので注意する。

### 4 注

(1) 注は本文中に上付き文字で通し番号を付し、内容は本文末尾(謝辞の後、参考文献の前)にまとめて通し番号を付け列記する。本文で文献に言及する場合は、すべて「5 引用文献」の作法に従うこと。

(2) 注をつける場合、原則「本文の特定箇所について説明を補足する場合」のみとする。**「文献名」を挙げるためだけに注を入れるようなことはせず、いたずらに注の数を増やさない。**

<具体例> 小川琢次郎は、地理を教授する目的を上記のように論じた<sup>23)</sup>。(本文末尾の注において)23) その他に、小川は地理教授の目的を人間形成の点から論じたり、生活に役立つことの大切さを論じたりしている。

## 5 引用文献

- (1)本文中で文献に言及したり引用する場合は、著者が3人以上で漢字名なら筆頭著者の姓に「○○ほか」、それ以外の言語は×× et al.を付す。直接引用の場合には該当するページを明記する。著者名と年号をつなげる場合は、両者のあいだに半角スペースをはさむ。次の具体例に準拠する。

<具体例> 日本火山学会 (1984) は……, 森川 (1990a: 182-192, 1990b) は……, 米倉 (1977, 1978a, b) は……, 高阪 (2000: 50, 61-62)は……, 太田・寒川 (1984) は……, Okazaki and Sunamura (1994)は……, 藤野ほか (1996) は……, Johnston et al. (1994: 136-138) によれば……, これらの研究 (渡邊 1987; 漆原 1990)は……, ……である (スミス 1985: 27), ……という見方もある (Dennis 1989; Richter 1996).

- (2) ウェブサイトから引用する場合は、必ずサイトの URL を ( ) で挿入し、かつ最終閲覧日を入れること。

<具体例> 法務省入国管理局 (<http://www.immi-moj.go.jp/>) (最終閲覧日 2014 年 10 月 31 日) によれば

## 6 参考文献

- (1) 引用文献と、参考文献(本文中に直接引用はしなかったが論述の参考とした文献)を、最後にまとめて列記する。

- (2) 文献の並べ方

- 1) 日本語文献, 欧語文献, 中国語文献, 韓国語文献の順に並べる。
- 2) 日本語文献は、著者名の五十音順に並べる。欧語文献は、著者名(姓が先)のアルファベット順に並べる。
- 3) 同じ著者の文献は発表年の順に並べる。同じ発表年のものが複数ある場合には、引用順に森川 洋 1990a, 森川洋 1990b, などとする。
- 4) 複数の著者によるものは、ファーストオーサーであいうえお(あるいはアルファベット)順で書く。その際、同一の著者たちの文献は発表年順に、発表年が同一の場合には共著者の数の少ない順に並べる。

- (3) 文献の表記

- 1) 著者と年号の間には半角スペースを入れる。
- 2) 雑誌の巻数は、第53巻 第1号の場合、「53-1」のように書く。巻のみの場合は、「53」と書き、号のみの場合は、「1」と書く。雑誌のタイトルと巻・号の間には半角スペースを入れる。
- 3) 雑誌のページ数は、「:」の後に該当ページ数の範囲を入れる。複数のページにまたがる場合は、「-」でつなぐ。

<具体例> 片岡博美 2014. ブラジル人は「顔の見えない」存在なのか? - 2000 年以降における対日ブラジル人の生活活動の分析から - . 地理学評論 87-5: 367-385.

- 4) 単行本の場合は、タイトルを『 』で記す。 **総ページ数などは記載しない。**

<具体例> 阿部亮吾 2011. 『エスニシティの地理学 - 移民エスニック空間を問う -』古今書院.

- 5) 編著本の1章など、一部の論文を引用する場合は、以下のようにする。

<具体例> 漆原和子 1990. 石灰岩地域の土壌. 浅海重夫編『土壌地理学 - その基本概念と応用』177-185. 古今書院.

- 6) **欧文単行本, 欧文雑誌名はイタリック体(斜体)** とする。

<具体例> Okazaki, S. and Sunamura, T. 1994. Quantitative predictions for the position and height of berms. *Geographical Review of Japan* 67B: 101-116.

Johnston, R.J., Gregory, D. and Smith, D.M. eds. 1994. *The dictionary of human geograph*

y, 3rd ed. Oxford: Blackwell Publishers.

- 7) 訳書は邦訳書を中心に扱いたい場合には邦文文献に入れ、原書を中心に扱いたい場合には逆に欧文文献に入れる。  
(4) 具体例は以下に準拠する。

#### 参考文献

- 猪木幸男・黒田和男 1965. 5万分の1地質図「大江山」および説明書. 地質調査所.
- 宝田晋治・村岡洋文 2004. 八甲田山地域の地質. 地域地質調査報告(5万分の1地質図幅), 産業技術総合研究所地質調査総合センター.
- 上原秀明 1999. 織田武雄著『古地図の博物誌』(書評) 地理学評論 72A: 457-460.
- 漆原和子 1990. 石灰岩地域の土壌. 浅海重夫編『土壌地理学——その基本概念と応用』177-185. 古今書院.
- 太田陽子・寒川 旭 1984. 鈴鹿山脈東麓地域の変位地形と第四紀地殻変動. 地理学評論 57A: 237-262.
- 金子いずみ 2008. 集落営農の労働力構成. 農政調査委員会編『日本の農業 あすへの歩み 238』1-133. 農政調査委員会.
- 高阪宏行 2000. 『地理情報科学ハンドブック』朝倉書店(出版予定).
- 後藤忠志 1993. 大雪山・北八甲田山における登山道の侵食. 北海道大学大学院環境科学研究科修士論文.
- スミス, D. M. 著, 竹内啓一監訳 1985. 『不平等の地理学——みどりこきははずこ』古今書院. Smith, D.M. 1979. *Where the grass is greener: Living in an unequal world*. London: Penguin Books.
- 高橋 誠 1987. Gilg, A.: *An introduction to rural geography*. (書評) 地理学評論 60A: 407-408.
- 富田和暁 2004. 三大都市圏における地域変容. 杉浦芳夫編『シリーズ〈人文地理学〉6 空間の経済地理』80-105. 朝倉書店.
- 中道圭一・森山昭雄 2005. 三河山地西縁花崗岩丘陵地における二次林植生. <http://www2.rak-rak.ne.jp/D0AB3812/study/mikawaforest.htm> (最終閲覧日 2006年4月11日)
- 内閣府 2011. 『高齢社会白書 平成23年版』
- 日本火山学会編 1984. 『空中写真による日本の火山地形』東京大学出版会.
- 深野麻美・春山成子・桶谷正一郎 2010. カンボジア・トンレサップ湖岸北西部の地形. E-journal GEO5: 1-14. [http://www.jstage.jst.go.jp/browse/ejgeo/5/1/1/\\_pdf/-char/ja/](http://www.jstage.jst.go.jp/browse/ejgeo/5/1/1/_pdf/-char/ja/) (最終閲覧日 2011年7月7日)
- 藤野 毅・浅枝 隆・和氣亜紀夫 1996. 夏季の都心部周辺における気温分布特性に関する数値実験. 地理学評論 69A: 817-831.
- 前島郁夫・田上善夫 1990. 19世紀初頭の日本の気候——1816年を中心に. 前島郁夫編『江戸時代の日記の天気記録による気圧配置型の復元』(昭和62年度~平成元年度科学研究費補助金一般研究(B)研究成果報告書) 82-96. 東京都立大学理学部地理学科.
- 村山祐司・柴崎亮介編『シリーズ GIS1 GISの理論』朝倉書店.
- 森川 洋 1990a. 『都市化と都市システム』大明堂.
- 森川 洋 1990b. 広域市町村圏と地域的都市システムの関係. 地理学評論 63A: 356-377.
- 矢ヶ崎典隆・斎藤 功・菅野峰明編著 2003. 『アメリカ大平原——食糧基地の形成と持続性』(日本地理学会海外地域研究叢書 3) 古今書院.
- 柳田國男 1969〔1929〕. 都市と農村. 柳田國男『定本 柳田國男集 16』237-391. 筑摩書房.

- 渡邊真紀子 1987. 男体山東麓域における土壌腐食特性の垂直分布と水平分布. 地理学評論 60A: 251-264.
- 南 榮佑 1988. 『都市と国土』 ソウル: 法文社. (韓国語)
- Christaller, W. 1933. *Die zentralen Orte in Süddeutschland*. Jena: Fischer. Translated by C. W. Baskin 1966. *Central places in Southern Germany*. Englewood Cliffs: Prentice-Hall.
- Cooper, M. 1996. Harley-riding, picket-walking socialism haunts Decatur. *Nation* April 8: 21-25.
- Dennis, R. 1989. Dismantling the barriers: Past and present in urban Britain. In *Horizons in human geography*, ed. D. Gregory and R. Walford, 194-216. London: Macmillan.
- Griffith, D., Doyle, P. and Wheeler, D. 1997. A GIS and spatial statistical analysis of urban childhood lead pollution exposure. In *Conference proceedings and program*, First Syracuse Regional Lead Conference. ed. A. Hunt, 13-16. Syracuse: SUNY Health Science Center.
- Harris, C. D. and Ullman, E. L. 1941. A theory of location for cities. *American Journal of Sociology* 46: 853-864. Reprinted in Mayer, H. and Kohn, C. eds. 1959. *Reader in urban geography*, 202-209. Chicago: University of Chicago Press.
- Johnston, R.J., Gregory, D. and Smith, D.M. eds. 1994. *The dictionary of human geography*, 3rd ed. Oxford: Blackwell Publishers.
- Krim, A.J. 1967. *The innovation and diffusion of the street railway in North America*. Master's thesis, Department of Geography, University of Chicago.
- Morin, K. 1996. *Gender, imperialism and the Western American landscapes of Victorian women travelers, 1874-1897*. Ph. D. dissertation, Department of Geography, University of Nebraska.
- Okazaki, S. and Sunamura, T. 1994. Quantitative predictions for the position and height of berms. *Geographical Review of Japan* 67B: 101-116.
- Richter, M. 1996. Klimatologische und pflanzenmorphologische Vertikalgradienten in Hochgebirgen. *Erdkunde* 50: 205-237.
- Smith, D.M. 1979. *Where the grass is greener: Living in an unequal world*. London: Penguin Books. スミス, D. M. 著, 竹内啓一監訳 1985. 『不平等の地理学——みどりこきははずこ』 古今書院.
- Stanislawski, D. 1974. Review of *Topophilia: A study of environmental perception, attitude and values* by Yi-Fu Tuan. *Professional Geographer* 24: 456-457.
- Trimble, S.W. and Lund, S.W. 1982. *Soil conservation and the reduction of erosion and sedimentation in the Coon Creek Basin, Wisconsin*. U.S. Geological Survey Professional Paper 1234. Washington: U.S. Government Printing Office.
- United Nations Educational Science and Cultural Organization (UNESCO). International Hydrological Programme (IHP). <http://www.unesco.org/water/ihp/index.shtml> (last accessed 15 May 2006)
- Wade, R. 1999. The Asian debt-and-development crisis of 1997-? Causes and consequences. *World Development* 27(forth coming). Also at <http://epn.org/sage/asia698.html>

## 7 提出

- (1) 論文を提出する時には、左端に穴を2つ空け、それを「紙製ファイル」に綴じる。

- (2) そのファイルの表紙及び背表紙にそれぞれ「論文題目・学籍番号・氏名」を明記する。
- (3) **提出期限は1月10日（祝日の都合で変わることもある）の正午**である。必ず余裕を持って提出できるように準備する。
- (4) 論文の修正やプリントアウト、目次作成や図・表の本文への貼り付けなどに予想以上の時間がかかるので、十分な期間をとっておく。
- (5) 12月10日から卒論は提出できるが、その場合にも教務課へ必ず自分で提出する。なお、提出の際、教務課から提出の証明としての受領を明記した紙片が渡されるので大切に保管する。

## 8 その他

- (1) 論文は出来る限り簡明であることが望ましい。したがって資料類は極力、取捨選択し、論述も無駄な部分をなくすよう努力する。長ければ良いと言うものではない。そのためには良く読み返して（あるいは他人に読んでもらい）、筋の通ったものにするように努める。
- (2) また、体調の維持にはとくに留意し、くれぐれも風邪で寝込むようなことにならぬよう老婆心ながら注意をしておく。

以上